

## 唐津の祭り⑥祇園祭と各地のくんちほか（1/4）

分野 文化  
地域 全域

◎地図・写真・統計資料など

祇園と親しみを持って呼ばれる神は、八坂神社で、祭神は素盞鳴命（すさのおのみこと）とし、疫病を防御する神として信仰を広めた。

祭は、お祓いと山傘（山鉾）、風流踊りを中心とする賑やかなもので今日の夏祭りとして全国で広く行われている。



小友祇園祭

（唐津市フォトライブラリーより）

### ■小友祇園祭

万治元（1658）年、当地に流行したコレラの疫病退散を祈願し、笹竹に御幣を付けて村内を回ったことが神事の始まりだと言われている。

現在では旧暦6月14日と15日の大潮の日が祇園祭開催と決められている。約1週間かけて高さ15m、重さ約3トンの山笠を地元の青年たちによって造り上げられる。

祭当日は、干潮直前にお祓いを終え、「イナイ棒」と呼ばれる4本の棒を約50人の法被姿の若者が担ぎ上げ、鉦と太鼓による囃子に乗り、「アーサッサ」の掛け声とともに、吹流しや餅花で飾った山笠は海の中へと進む。

【場所】唐津市呼子町小友地区

【開催期日】旧暦6月14日・15日

【問い合わせ】呼子観光案内所 0955（82）3426

### ■小川島祇園祭

顔に化粧をした男たちが、鐘や太鼓、笛の音色に合わせて山笠をひいて島内を廻る。

【場所】唐津市呼子町小川島

【開催期日】旧暦6月14・15日

～2/4へつづく～

◎引用・参考文献（出典）

◆唐津市フォトライブラリー

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

## 唐津の祭り⑥祇園祭と各地のくんちほか（2/4）

分野 文化

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など

～1/4からつづく～

### ■浜崎祇園祭

まむし除けで知られる浜崎・諏訪神社境内に祭られている祇園社の祭礼。宝暦3（1753）年、浜崎の浜区の網元・中村屋久兵衛が京都の八坂神社を参拝した岐路、博多で櫛田神社の山笠を見物し、地元の病疫退散と五穀豊穰を祈願して始まった。

漁業（浜区）、農業（西区）、商業（東区）の人々が、それぞれ大漁、豊作、繁盛を祈願して3基の山笠を作り、旧暦6月15日前後に市中を曳き回したのが起源といわれる。

山笠は高さ15m、重さ約5トンで、九州でも最大級を誇る。台車の上に5本の柱を立て、「槍出し」と呼ばれる腕木を大きく張り出し、そこを館や人形で飾る。飾り物は毎年変わり、表を伝統的な時代物、見送りは時代を流行したものを題材にする。

山囃子は、笛・太鼓・鉦に三味線が加わり、10曲以上が継承されている。三台の山笠が町中心部を巡行後、宵闇に諏訪神社前で、無数の提燈に灯りを点した華麗な山笠を、右回りに何回も回転させる「大まぎり」。1台につき約150人の締め込み姿の男衆が出すエネルギーは、暑い夜空をさらに加熱する。

【場所】唐津市浜玉町浜崎 諏訪神社周辺

【開催期間】7月第3土曜・日曜日

【問い合わせ】唐津観光協会浜玉支所 0955（56）6937

～3/4へつづく～



浜玉祇園祭

（唐津市フォトライブラリーより）

◎引用・参考文献（出典）

◆唐津市フォトライブラリー

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

## 唐津の祭り⑥祇園祭と各地のくんちほか（3/4）

分野 文化  
地域 全域

◎地図・写真・統計資料など



徳須恵祇園祭



納所くんち「ガメ踊り」



納所くんち



星賀くんち

(唐津市フォトライブラリーより)

◎引用・参考文献（出典）

◆唐津市フォトライブラリー

～2/4からつづく～

### ■徳須恵祇園祭

250年以上の伝統を誇る徳須恵神社の夏祭り。博多祇園山笠の飾り山のような山笠1基が、無病息災と豊作祈願を込めて、地域内を勇壮に引き回される。

祭当日は各家の軒先に、朱色で描いた吉祥模様の燈明が飾られ、夏祭の風情に花を添える。

芳谷炭鉱華やかな頃は山笠2台をひき回し夜店も多く参詣人や見物客も多かったが、最近は山笠も1台で昔の面影はない。この日は水泳をすると河童が引くといわれている。

【場所】唐津市北波多徳須恵地区

【開催日】7月第4土曜・日曜日

【問い合わせ】唐津市北波多支所産業課 0955（53）7135

### ■納所（のうさ）くんち

納所住吉神社の秋祭りで、「浦島太郎と竜宮城」と「鳳凰丸」という2台の山笠が納所地区を巡る。（数年に1度）

また、境内では御座に2組の花嫁と新郎の顔を描いたものを体にすっぽりと巻きつけ、滑稽な踊りを披露する「ガメ踊り」が奉納される。

囃子は「新道囃子」「お江戸くだり」など12曲がある。

【場所】唐津市肥前町納所 住吉神社境内

【期日】9月第3または第4日曜日

【問い合わせ】唐津市肥前支所産業課 0955（53）7145

### ■星賀くんち

鷹島肥前大橋開通前は「船に乗る山笠」としていられていた。

2011年10月に8年ぶりに復活された。

【場所】唐津市肥前町星賀八幡神社

【開催日】10月第3・4週の土・日(2～3年に1度)

～4/4へつづく～

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

## 唐津の祭り⑥祇園祭と各地のくんちほか（4/4）

分野 文化

地域 全域

◎地図・写真・統計資料など

～3/4からつづく～

### ■相知くんち

熊野神社の秋の大祭で、古くは「供日（くにち）」である10月19、20日に行われていた。

祭りの主役は「羽熊（はぐま）」と呼ばれる毛槍を投げ渡ししながら進む江戸時代末期の大名行列を模した行列。

この羽熊大名行列は、唐津神社の『神祭行列絵図』にも描かれているように、元をたどれば唐津くんちの際に行われていた。

明治6（1873）年、唐津神社から相知村の村社であった熊野神社に毛槍や挟み箱が譲られたことから、相知で羽熊大名行列が行われるようになったという。

相知くんちでは「羽熊」に続き、稚児行列、神輿行列、鐘を打ち鳴らす中山浮立（ふりゅう）、大野大黒舞、山笠が続く。翌日は大人と同じ形態の「子供羽熊」が山笠等を引き連れて巡行する。なお、本祭前夜には宵山も行われる。

大名行列はもともと「羽熊」の行列は、安政年間（1854～59）から、唐津くんちで毛槍や挟み箱を持ち、大名行列を模して唐津神社の神輿を供奉する行列が行われていた。

また、この行列は唐津藩主・小笠原氏の参勤交代の様子を模したと言われている。

明治6（1873）年、唐津神社から相知村の熊野神社に毛槍や挟み箱が譲られたことから、熊野神社の祭りに「羽熊行列」が加わるようになった。毛槍を投げ渡ししながら更新する形態は、全国的に見ても珍しい例である。

大野大黒舞は明治以前から行われていた伝統芸能。一時中断していたが、住民の努力により復活した。恵比寿、大黒天、毘沙門天、弁財天、福祿寿、寿老人、布袋の七福神に扮した女性たちが、大黒舞の歌とともに目出たい振付けで舞い踊る

【場所】唐津市相知町内

【開催日】10月第3土曜・日曜日

【問い合わせ】唐津観光協会相知支所 0955（51）8312



相知くんち



相知くんち「大名行列」



相知くんち「大野大黒舞」

（唐津市フォトライブラリーより）

◎引用・参考文献（出典）

◆唐津市フォトライブラリー

◎もっと詳しく知りたい方は

唐津市近代図書館へ  
お問い合わせください。

■電話：0955-72-3467

■ホームページ：  
[http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts\\_lib/index.html](http://tosyokan.karatsu-city.jp/hp/cnts_lib/index.html)

◎エピソード・伝承・うんちく など

### ■相知くんちで唐津藩の大名行列

明治6年旧唐津藩主小笠原長国氏が転居するに当たり、唐津神社にあったご紋章入りの幕、参勤交代に使用した所道具（毛槍など）を払い下げてもらい、それ以降、熊野神社神祭では、羽熊（はぐま）行列、御神輿行列、稚児行列が行われ、その後山笠が旧宿場町町内をひき回す。